

不登校対策 今年度の振り返りと次年度への対策を

各学校では、新たな不登校やいじめを出さない魅力ある学校づくりに向けて取り組まれていると思います。いよいよ年度末を迎え、児童生徒に関する引継ぎを行い、来年度のより良いスタートが切れるよう準備する時期です。引継ぎは、小中学校間だけでなく、校内でも、不登校やそのリスクを抱える児童生徒に関する対応等について丁寧に行ってくださいようお願いいたします。

本号では、不登校の現状と具体的な対応のヒントを掲載しました。各学校での不登校児童生徒への支援にお役立ていただければと思います。

■不登校率は、増加傾向

右は、県北地区管内の不登校数(不登校を主たる理由に年間30日以上欠席した児童生徒数)をもとに算出した不登校率です。不登校率は昨年度よりも増加しており、多くの学校が不登校対策を喫緊の課題としています。

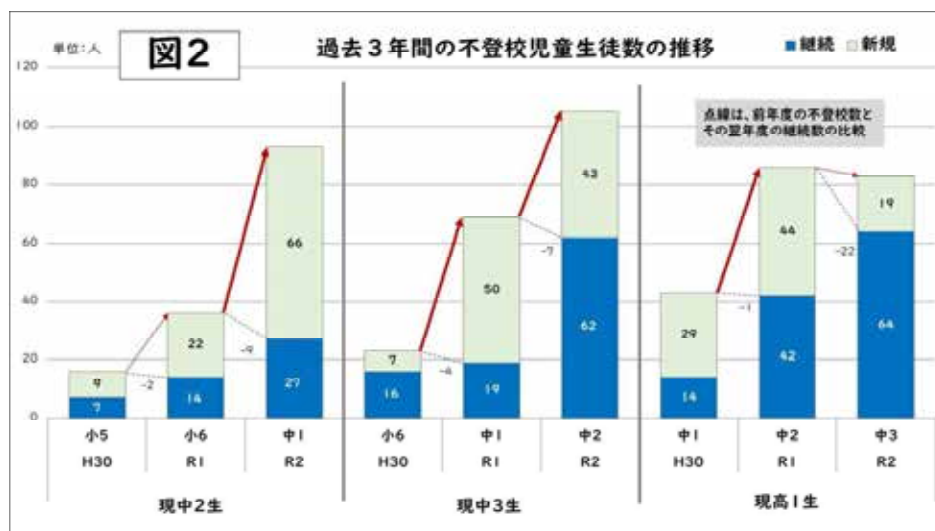


■小学校高学年から中学校2年までは、不登校リスクが高い時期

右は、県北地区管内の現高校1年、中学3年、中学2年の過去3年間の不登校数の推移です。

この図から、小学6年から中学1年、中学1年から中学2年にかけて大幅に「新規」の不登校児童生徒数が増加していることが分かります。

また、中学3年では、適切な進路指導や継続的な関わりにより、社会的な自立に向けて成長していく援助指導が功を奏し、新規の不登校が中学1・2年に比べ、減少傾向にあることがうかがえます。



現在、各小中学校では、新入生について引継ぎを行う時期かと思います。不登校等の不適応については、小学校段階で兆候があるとの指摘もあります。小学校からの不登校リスクを抱えた児童の中学校への情報提供は、中学校における「新規」の不登校生徒の発生リスク回避に繋がります。中学校との丁寧な引継ぎ・情報共有をお願いいたします。

その際、小学校で作成・使用した個別の支援シートなどがあると、可視化された引継ぎが可能となります。なお、文部科学省でも「児童生徒理解・支援シート(参考様式)」を示していますので、参考にしてください。

【参考】「児童生徒理解・支援シート(参考様式)」(文部科学省) ※PDF/Excelで公開されています。

中央教育審議会初等中等教育分科会資料「2 小中連携、一貫教育の推進について」

■「継続」と「新規」に着目した積極的な取組を

「継続」と「新規」の視点から不登校を考える際、継続に着目した取組のイメージは、「児童生徒の社会的な自立を目指した多面的な支援」になります。また、新規に着目した取組のイメージは、「居場所づくり」や「絆づくり」になります。下記、参考資料を改めてご一読ください。

【参考】「生徒指導リーフ Leaf.2 及び Leaf.22」(文部科学省 国立教育政策研究所)

「北教だより 令和2年度第11号、令和元年度第4号」 ※県教育委員会HPよりダウンロード可

不登校児童生徒への対応のヒント

不登校児童生徒は、いわば心的エネルギーが少なくなっている状態といえます。不登校児童生徒と日々接している先生方は、その子の心的エネルギーが少しずつ貯まっていくことを願い、学校復帰や社会的な自立に向かって援助されていると思います。その援助が、実を結ぶよう不登校児童生徒への対応のヒントをいくつか記載しますので、参考になさってください。



1 スモールステップになっていますか

その子にとって負担が大きくないか、という検討を常に行う必要があります。「やれる範囲で少しずつ」が基本となります。

2 動機付けがありますか

例えば、別室で30分過ごすという場合、「30分でいいから頑張ろう」では動機付けはできません。「身体測定」や「書類の記入」、「先生と遊ぶ」等、大義名分があれば、結果的に30分別室で過ごすことができるかもしれません。

3 本人が選択するようになっていきますか（○か×か、ではなく、◎か○か）

何かの提案をする場合、本人が選択するようにします。その際、○か×かを提案すると、×を選択してしまいます。（例：○「学校に行ける？ ×行けない？」）そこで、◎か○で提案します。例えば、登校しづりをしている児童生徒に対して、保護者には「体調も悪くないんだから、学校に行きなさい」「学校に行く？それとも休む？」といった声かけから、「普通通りに行く？それとも落ち着いてから行く？」と聞いてもらうようにします。どちらにしても登校することを選択するような声をかけてもらいます。

4 プライドを守っていますか

その子のプライドをしっかりと守ってあげることが大切です。放課後登校などの際、「誰とも会わないから大丈夫だよ」という何気ない台詞は、「あなたは、人と会うことを怖がっている心の弱い人だ」と言われていると感じる児童生徒がいます。何気ない一言が、その子のプライドを傷つけて人間関係を壊してしまうこともあります。一方、その子の好きなものや宝物を探り、そうした会話をきっかけにその子と関係がよくなることもあります。その子の内面をよく推し量ることが必要です。

5 次につながるようになっていきますか

別室で30分過ごすことがクリアできた場合、次のステップとして、45分、1時間と時間を延ばそうとすると失敗することがあります。その子が「先生は、30分だけと言ったのに」「30分じゃだめなの？」という気持ちになるためです。「今週（今月）は、30分だけにしよう」といった声かけをすると、次のステップへの架け橋が見えます。

【参考】 校内研修シリーズ No.47 「不登校児童生徒の支援と教育相談」（FR教育臨床研究所所長 花輪敏男）NITS独立行政法人教職員支援機構

【ご一読ください】

現在、国や文部科学省が不登校をどのように捉えているかは、「[不登校児童生徒への支援の在り方について（通知）\[2019.10.25\]](#)」に示されています。

この通知は、それ以前に発出された不登校への対応や支援の在り方に関する通知を整理して、改めてまとめたものです。通知は、インターネットで誰でも閲覧できます。不登校の支援に当たる教職員は、その内容を特に確認しておく必要があります。

■校内研修等で活用なさってください 「[道徳教育に関する資料](#)」

道徳教育推進教師の代表者会議で使用した資料を、教育情報ネットワークにアップロードしました。実践発表と演習の資料です。詳しくは、県北教育事務所学校教育課からの事務連絡をご覧ください。